薬局DX推進コンソーシアム

国家戦略特区における実証事業の結果と展望

2026年2月2日

一般社団法人　薬局DX推進コンソーシアム
狭間　研至

本法人について

2023年６月１日に任意団体として、薬局DX推進コンソーシアムを設立設立時　正会員（薬局企業）22社、準会員（その他企業）5件

大阪府、大阪市とともに国家戦略特区に提案し、大阪市の薬局で実証。医薬品医療機器等法の改正に伴い、全国で実施できる見込みとなったことから、2025年4月に一般社団法人化。

現在　代議員2社、合議員34社、正会員30社、合計66社

（うち、薬局企業：41社）

薬局DX推進コンソーシアム

実証事業の実施について

実証事業全体で10社15薬局で実施

(2024年8月～2025年1月)

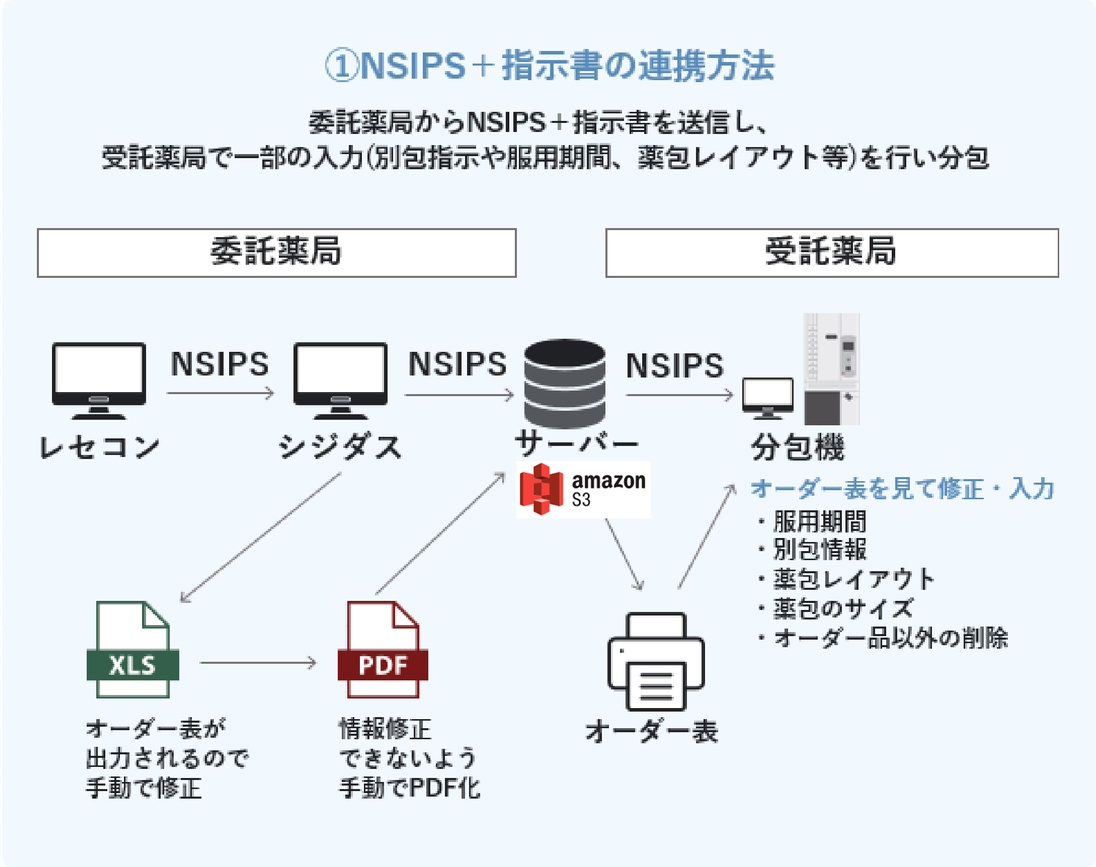
フェーズ1（同一法人内）　：**45**件

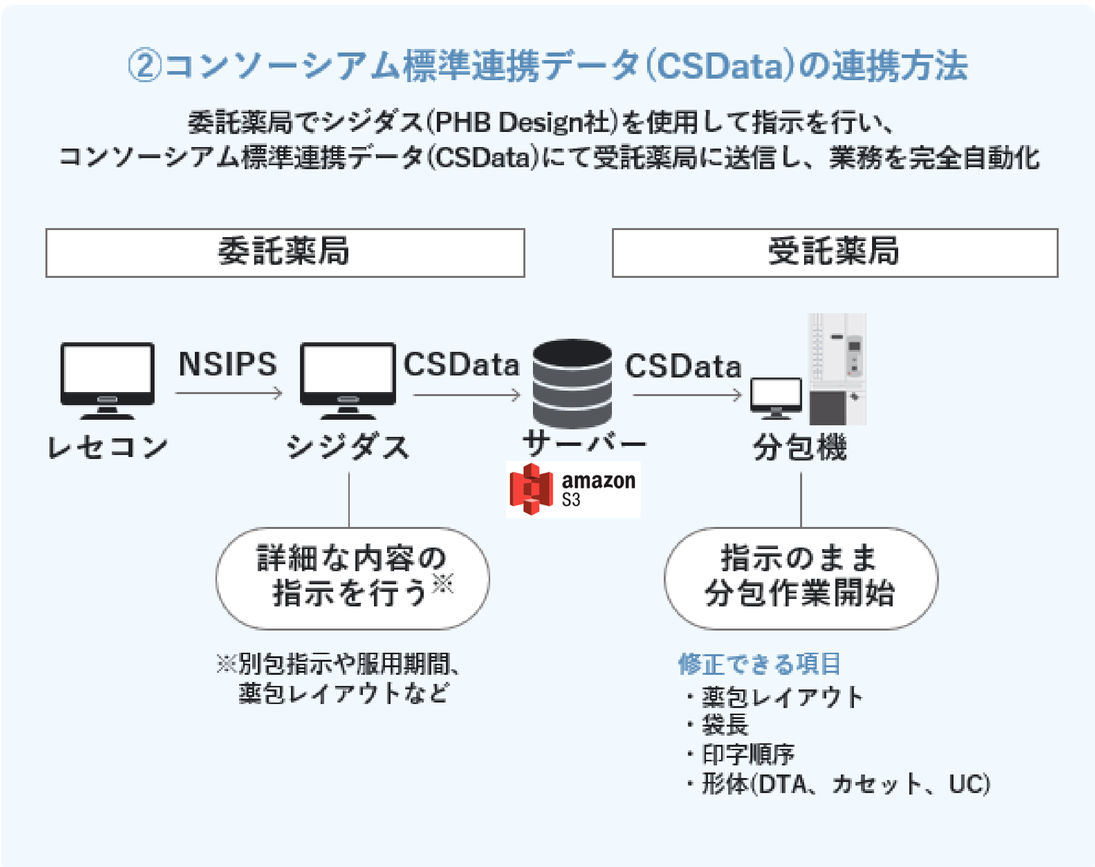
フェーズ2（別法人間）　　：**111**件

実証事業全体で**156**件の実施

薬局DX推進コンソーシアム

調剤情報伝達を完全電子化



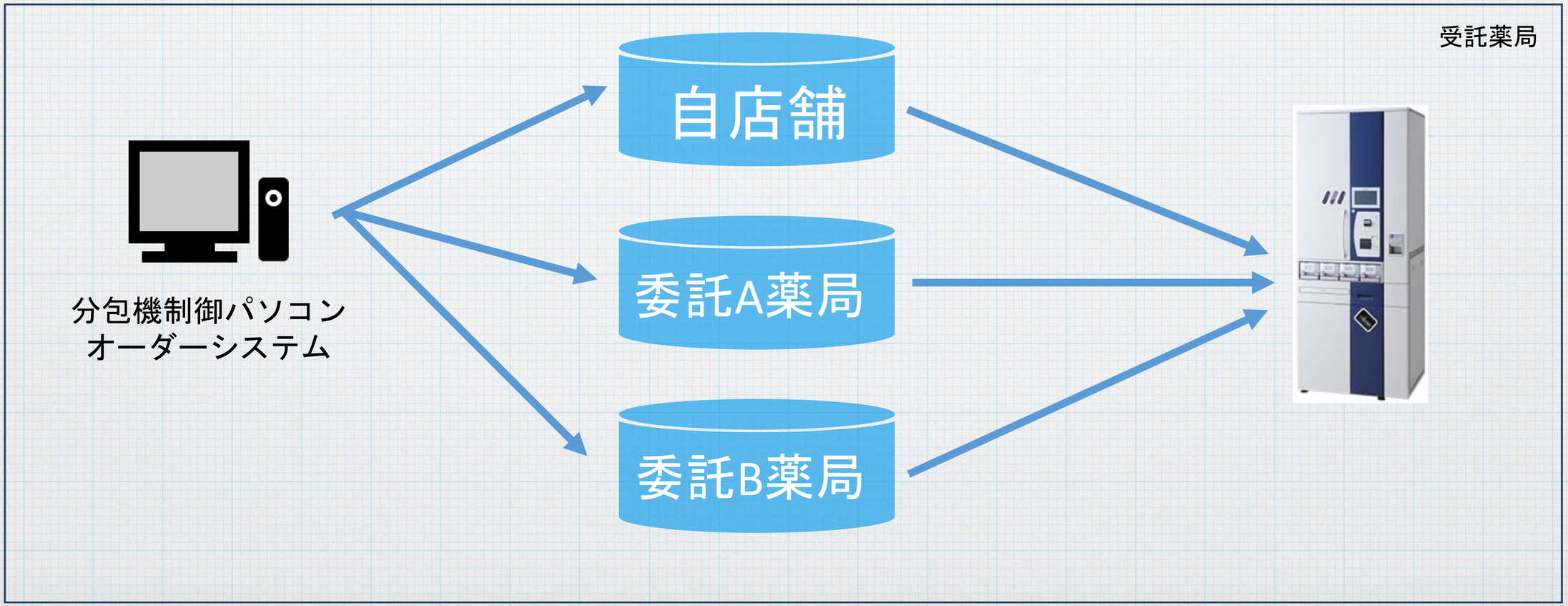


委託側の調剤情報をそのまま受託側で分包

データはAmazon S3を使用して安全に伝達

分包機の複数薬局対応

調剤機器内の患者データベースを切り分けて
薬局ごとに切り替える



薬局DX推進コンソーシアム

156例の結果

1．外部に委託したことに起因する調剤過誤はなかった
　→安全性については一定の確認ができた

2．症例数が多くなく、対人業務の充実は確認できず
　→有効性については統計的な確認までは至らず

3．症例数が多くなく、最適な委託価格は決められず
　→経済性については委受託側双方にメリットが出せず

薬局DX推進コンソーシアム

156例に留まった理由

1．説明と書面による同意取得

→患者様には変化が無いので説明に時間がかかる

→患者様が署名への抵抗感がある

→家族が遠方にいる要介護者の場合は非現実的

説明と同意取得に手間取り、まとめて任せられない

2．一包化のみで完結できる患者は全体の1/3*であった

*一包化のみで完結：52例　追加業務必要：104例

→委託元で追加の業務が発生するため非効率的

薬局DX推進コンソーシアム

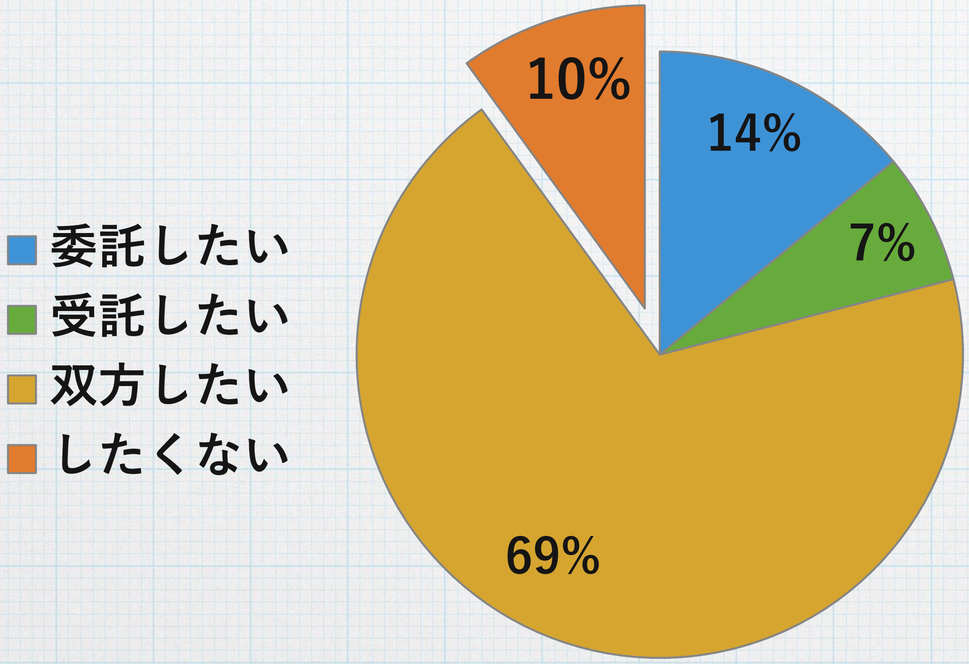
実証事業で明らかになったテーマ

- 委託範囲
  - 一包化に付帯する漢方薬等の分包品やPTP（吸湿性の為）、栄養剤、貼付薬等がある方が2/3（実証事業対象外でも同様）
- 同意書取得
  - 患者自身は特に変わらず理解しづらく説明に時間必要
- 三次医療圏内
  - 隣接三次医療圏間の方が便利なケースもあり得る
- 在庫管理
  - 委受託薬局間での在庫管理・調整が手作業

薬局DX推進コンソーシアム

実施薬局スタッフへのアンケート

調剤業務の一部外部委託への意向



実施へのハードル

一包化以外が認められていない

患者への説明が困難

患者同意の説明が必要

事務作業が煩雑

委託するほどの件数なし

機器システム投資困難

やってみたいが、一包化のみや説明・同意書取得が手間

薬局DX推進コンソーシアム

一般の方への大規模アンケート

Q2：薬局が調剤の一部を外部委託する場合、どのような同意のとられ方がよいと思いますか？

Q1.最初の説明文を読んでからお答 ⇕　設問クロス　CSVダウンロード

	統計	（男性 / 女性）	
同意、説明は必要ない	637	（372 / 265）	12.74%
説明を掲示するのみでよい	752	（444 / 308）	15.04%
説明のみでよい	1154	（745 / 409）	23.08%
初回のみ必要（口頭での同意、薬剤師が記録）	1224	（654 / 570）	24.48%
初回のみ必要（書面に署名）	449	（241 / 208）	8.98%
毎回必ず必要（口頭での同意、薬剤師が記録）	431	（229 / 202）	8.62%
毎回必ず必要（書面に署名）	353	（190 / 163）	7.06%

84％が
書面への
署名が不要

回答数	
年代	件数
２０代	750
３０代	750
４０代	1,000
５０代	1,000
６０代	1,500
合計	5,000

薬局DX推進コンソーシアム

今後の課題と展望

1．ロット番号管理：委託側が受託側在庫を管理する必要

→GS１コードをPTPシートに入れば管理可能
（ロット番号付き）

2．在庫管理の自動化：委託側・受託側で実数との乖離

→在庫管理システム連携で分譲をデジタル化すれば可能

3．受託薬局からの直送に向けた課題の整理と対応

→委託側からの画像確認、薬袋の発行、配送品質管理

本コンソーシアムで継続して取り組む予定

薬局DX推進コンソーシアム

実証事業における外部委託（委託薬局）の立場からの現場意見

薬局・薬剤師の機能強化等に関する検討会 提出資料

[ハザマ薬局　薬剤師　天羽 恵佑]

調剤外部委託の運用フローと対人業務拡充への課題

【1】外部委託の具体的運用フロー

①同意書取得(個々に説明と署名)
②処方箋応需
③受託先の採用品目確認（電話・FAXにて調整）
④処方監査
⑤レセコン入力
⑥CSDate送信
⑦受け取り
⑧自局での仕上げ作業
⑨在庫調整(自局在庫との整合性管理)

薬局DX推進コンソーシアム

調剤外部委託の運用フローと対人業務拡充への課題

【2】 対人業務の拡充に向けての現状と課題

現状の成果：在宅医療において当日配薬分を早期に配送できる傾向がある。

課題： 既存患者は方法の変更に対して署名への心理的抵抗が強い傾向。
受託先との品目確認が電話・FAXで不正確なアナログ手法。
また委託後の在庫調整などの新たな管理工数が発生している。

結論： 時間の確保が不十分であり、運用の効率化と委託件数の増加が
対人業務拡充の前提条件。

薬局DX推進コンソーシアム

実証事業における外部委託
（受託薬局）の立場からの現場意見

薬局・薬剤師の機能強化等に関する検討会 提出資料

[24MEDICAL　薬剤師　八木 竜馬]

薬局DX推進コンソーシアム

1. 受託薬局としての立場と前提

■ 現在の立ち位置

・実証事業として「バード薬局」より一包化業務を受託

・制度の是非ではなく、「実運用で得られた知見」を共有

■ 検証の範囲（前提）

・制度上整理された「一包化業務のみ」を対象

・受託側の検証であるため、除外件数・割合等は把握対象外

2. 一包化受託業務の運用実態と安全性

■ 業務特性

・通常の調剤業務としても過誤が生じにくい設計

■ 実証事業での強化点

・手順の明確化・確認工程の追加により堅牢な体制を構築

■ 現場の認識

・外部委託そのものがリスク要因ではない

・「業務設計とシステム」により安全性は十分に担保可能

3. 外部委託の効果と対象範囲の課題

■ 一包化以外も対象にすると効果が出やすい領域

・高額医薬品への対応・在庫管理負担の軽減
（使用頻度が低く在庫リスクが高い薬剤に有効）
・在庫の集約で期限切れ・廃棄リスクを低減
・欠品・緊急時の調達力が上がる（集約先で代替ルートを持ちやすい）
・患者への供給遅延の抑制（薬局間の在庫偏在を減らせる）
・医療機関側の処方設計が安定（「在庫がないから処方変更」の頻度を減らす方向）
・工程標準化による安全性確保（入庫～保管～ピッキング～監査～出庫の統一）
・監査・記録の一元化（誰がいつ何を扱ったかの追跡性が上がる）
・直送の将来検討に必要な実証基盤
（責任分界・同意・配送品質・温度管理等を段階的に検証できる）

■ 現行ルールの課題

・抗がん剤・希少疾患薬などは「一包化されない」ケースが多い
・「一包化のみ」前提では、本来の効果が見えにくい

4. 次の実証段階と「直送」への展望

■ 将来的な「直送」の検討に向けて
・一包化限定ではなく、安全な「付帯業務」の実証が必要

■ 提案：次の実証フェーズ
・PTP製剤、外用薬、漢方薬
・一包化薬に付随する分包品の取扱い など

■ 狙い
・定型化された業務の検証を積み重ね、直送実施の基盤とする

薬局DX推進コンソーシアム

5. 運用上の課題およびまとめ

■ 実務上の障壁
- 今回の実務上の障壁は無かった
- 在庫の調整、請求書の作成などの事務作業の増加

■ まとめ
- 一包化業務の安全性は確認済み
- 今後は「付帯業務の拡大」と「直送」を見据えた実証へ

薬局DX推進コンソーシアム

実証事業における受託薬局の現場意見（サマリー）

【現状の成果と安全性】

■ 安全性は十分に担保可能

・業務手順の明確化と確認工程の追加

・外部委託＝リスクではないことを確認

■ 効果が見えやすい領域

・高額医薬品の在庫リスク軽減に寄与

【制度・運用上の課題】

■ 「一包化のみ」の限界

・抗がん剤・希少疾患薬は対象外が多い

・一包化前提では本来の効果が限定的

■ 実務運用の壁

・施設入居者の「本人署名」取得が困難

・県境等の医療圏整理が一律では不可

【今後の提言：付帯業務の拡大から「直送」へ】

■ 次の実証フェーズの提案

PTP製剤、外用薬、漢方薬、分包品などの「付帯業務」も対象とすべき。

■ 将来的な展望

定型化された業務の検証を積み重ね、将来的な「直送」の実施基盤とする。

参考資料

フェーズ１実施結果：45例

フェーズ１は同一企業内４社８薬局で実施
2024年８月～2025年1月

社名	委託薬局	受託薬局	実施件数
アイン薬局	平野加美店	あべのハルカス店	3
スギ薬局	西田辺店	在宅調剤センター西田辺店	12
日本調剤	はなてん薬局	喜連東薬局	13
ハザマ薬局	住之江店	平野センター	17
合計			45

薬局DX推進コンソーシアム

フェーズ２実施結果：111例

フェーズ２は他企業間９社12薬局で実施
2024年10月～2025年1月

委託薬局	受託薬局	実施件数
バード薬局	２４薬局	56
スギ薬局　加美北店	日本調剤　喜連東薬局	8
ハザマ薬局　住之江店	クオール薬局 住之江北島店	3
アイン薬局　平野加美店	ハザマ薬局　平野センター	8
日本調剤　はなてん薬局	スギ薬局　在宅調剤センター西田辺店	19
あすか薬局	ヒノデ薬局大正店	17
合計		111

薬局DX推進コンソーシアム

在庫管理について

委託薬局では自店舗の在庫は減らないが、在庫システム上では減る。

受託薬局では自店舗の在庫は減るが、在庫システム上では減らない。

これら分譲の処理を全て手作業で行っているため非効率的。

委託薬局					受託薬局				
薬品	操作	数	理論在庫	実在庫	薬品	操作	数	理論在庫	実在庫
A薬品	レセコン入力	14	86	100				100	100
A薬品	オーダー送信	14	100	100				100	100
					A薬品	配送	14	86	86

・実際の在庫の動きと在庫管理システムが連動出来ない
・分譲等の一括登録機能を実装している在庫管理システムが少ない